



社長のひとりごと…

わいわい倶楽部は、当社の大切なお客様の  
ために、わたしたち藤本工務店のスタッフが  
お伝えさせていただきますコミュニティー  
誌です。

## 『田舎者、東京へ行く』



東京都庁だ（でか～！）。先日、全国の工務店・ビルダーの集まりで新宿まで出かけた。久しぶりの東京でワクワク感もある。時間が無い時は東京駅から中央線に乗り新宿へ向かうのだが（一番早く行けるので）、私は出来るだけ山手線に乗るようにしている。電車のアナウンスで、“渋谷～”、“原宿～”などの東京ならではの地名を聞け、「東京に来たな～」と実感でき、田舎者の私は、これを一つの楽しみにしているためである。

出かける前に、「親父、あんまりしゃべるなよ。」と釘を刺されていたが、どうやら私がしゃべると品が無く、田舎者丸出しらしい。そんな訳で“おとなしく”と決め込んでいたのだが、突然の自己紹介が当たり、思わず「3700世帯の片田舎で、サルやシカと共存している。」と言ってしまった。山深い田舎しか自慢するものが無かったとは言え、今まで“おとなしく”を決め込んでいた事が水の泡となってしまった……。

それにしても、この街は何でもアリである。駅前では路上ライブで若者が歌い、それに合わせて踊っている人もあれば、歩道の片隅で段ボールを広げお休みになっている人もいる。また、それを横目に全くの無関心を装ったビジネスマンが通り過ぎて行く。都庁付近はオフィス街で、お昼休みともなれば公園や歩道、店先を問わず、至る所で弁当を食べる人達でいっぱいになる。武骨な性格の私にとっては特に違和感はないが、これも無関心が生み出した都会の安らぎと言ったところだろうか。

さて、新宿から電車で15分くらいの“下北沢”に私の三男が暮らしている。数年前、家出同然で上京し、役者を目指し、食うや食わずの貧困生活を今でもしているが、そんな人達がこの街には沢山いる。何とも不思議な街である。

帰路につき、敦賀が近づくにつれ、だんだんと心が重くなってきた。日々の生活や仕事の中、無意識に人目を気にしながら戦ってる自分の現実を思うと、東京に行ったきり自由奔放な生活をしている三男が実にうらやましく思えてきた……。

ではまた、来月もお逢いしましょう。  
今回も最後まで読んでいただき、

# おっがしう ごぞいました!!

